

《担当者名》○鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp 本家寿洋

## 【概要】

さまざまな障害を持った新生児から高齢者の方々が地域の中で、日常の営みとしての作業（家事や仕事の「仕事の活動」、  
「身近処理活動」、レクリエーションやレジャーなどの「遊び的活動」を意味する）やこれらの作業の遂行を基盤とした社会参加を促進するためのニーズとその実現を目指す支援のあり方に関して、主として作業行動学的観点に基づく基礎理論（ダイナミカルシステム理論、クライアント中心理論、人間作業モデル）を通して考究する。

## 【学修目標】

一般目標：研究テーマに関する作業行動学的観点からの考究と具体的支援課題への汎用性が理解できる。

行動目標：

1. 院生は各自のテーマにおいて、作業行動学的観点から考究することができる。
2. これらの考究を通して、支援課題に関する具体的な解決案や対策について言及できる。

## 【学修内容】

| 回    | テーマ                                    | 授業内容および学修課題                                                           | 担当者       |
|------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1～15 | 対象者の作業遂行や社会参加に関する作業行動学的観点からのアプローチと問題解決 | 講義では、院生の研究テーマについて解説、展開、目標設定や達成のために必要とされる作業行動学的観点に基づく基礎理論について系統的に教授する。 | 鎌田樹寛 本家寿洋 |

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

教員との討論や自らの解説等による理解の深化を重要視する。

プレゼン課題50%

討論内容50%

## 【教科書】

適宜指示する。

## 【参考書】

同上

## 【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること（各80分）。

## 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できるというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

## 【実務経験】

鎌田樹寛、本家寿洋（作業療法士）

## 【実務経験を活かした教育内容】

臨床や地域実践に基づく作業行動学的観点からの課題や問題解決への考究。